

本日の目的：幕府の収入源を知るとともに、初期の経済政策の特徴を理解する

○江戸幕府の収入源について


(a) 経常収入：常時収入として入ってくるお金

- ・幕府直轄地：1_____からの年貢米（400万石）＝幕府の収入の半分以上
- ・直轄鉱山：2_____からの金・銀産出
→金山・銀山は枯渇傾向にあり、幕末（1844年）には総収入の1.6%まで落ち込む
- ・長崎における海外貿易からの収入
→幕末まで貿易赤字の状態が続く（海外への3_____流出が問題となる）

(b) 臨時収入：1年、もしくは数年間、臨時的に入ってくるお金

- ・4_____：貨幣の改鑄によって得られる差益（出目）による収入
- ・諸貸付返済金：田沼意次以降、幕府は商人や諸大名に資金を貸し付け利息を得た
- ・5_____：町人や農民に対し臨時に上納を命じた金銀（臨時の税金）
→1761年以後、少なくとも16回の御用金に関する命令が知られている
→飢饉などにおける窮民救済、江戸城の再建、幕末の長州征伐などの軍事費調達

○江戸時代の貨幣制度について

- ・6_____制度：金貨、銀貨、銅貨の大きく3種類の貨幣が使用された
→江戸時代以前から経済が発達していた7_____では主に銀貨が流通
→8_____では主に金貨が流通
- 
- 9_____：国内が金貨圏と銀貨圏に分かれていた

○江戸時代の三大改革と言えど？

- ・10_____の改革（1716～45）：11_____による立案
→政策（_____）
- ・12_____の改革（1787～93）：13_____による立案
→政策（_____）
- ・14_____の改革（1830～43）：15_____による立案
→政策（_____）



三大改革は16_____と17_____による財政再建を目指した

※なぜ、新井白石や田沼意次の政策は「改革」と呼ばれないのか？

→理由：享保・寛政・天保の改革はそれぞれ当時の将軍が「改革」を宣言したため

○享保の改革以前の経済政策

- ・元禄時代（5代将軍¹⁸_____の治世）：開府以来、初めて赤字へ転落

【財政悪化の原因】

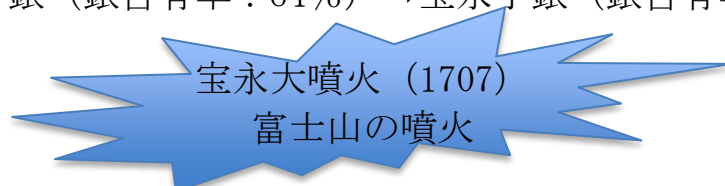
- ・鉱山資源の減少、鎖国による貿易収入の減少⇒幕府の収入減↓
- ・¹⁹_____（1657）による江戸城・江戸市街復興費⇒幕府の支出増↑
- ・綱吉の浪費：護国寺創建、寛永寺・増上寺改築など寺社造営費⇒幕府の支出増↑



収入が減少傾向にある中で、支出は増額の一途をたどり、最終的に赤字となる

【貨幣改鑄による赤字財政からの脱却】：勘定吟味役の²⁰_____による発案

- (a) 元禄の貨幣改鑄（1695）：赤字財政を改善するとともに、経済活性化に成功
- ・金貨改鑄：²¹_____（金含有率：84%）⇒²²_____（金含有率：54%）
- ・銀貨改鑄：慶長丁銀（銀含有率：80%）⇒元禄丁銀（銀含有率：64%）
⇒貨幣改鑄の差益（出目）により幕府は約500万両の臨時収入を得ることに成功
⇒市場における貨幣不足が緩和されたことで、経済が活性化
- (b) 宝永の貨幣改鑄①（1706）
- ・銀貨改鑄：元禄丁銀（銀含有率：64%）⇒宝永丁銀（銀含有率：50%）



(c) 宝永の貨幣改鑄②（1710）

- ・金貨改鑄：²³_____（金含有率：54%）⇒²⁴_____（金含有率：84%）
- ※元禄小判が約17.7 g なのに対し、宝永小判は約9.3 g ⇒金含有量は慶長小判の半分
- ・銀貨改鑄：宝永丁銀（銀含有率：50%）⇒宝永四ツ宝丁銀（銀含有率：20%）



宝永年間の2度の貨幣鑄造により、銀貨の銀の含有率は短期間のうちに $\frac{1}{3}$ となり、急激な²⁵_____を招き、多くの民衆が物価高騰に苦しむこととなる

<本日のまとめ>

- ・約260年間にわたって、江戸幕府の収入源の半数近くを占めていたのは年貢米
- ・「三大改革」はいずれも年貢米による収入増と倹約による支出の抑制を企図した
- ・荻原重秀の経済政策は「国定信用貨幣」の実現を目指したものであった
「貨幣は国家が造る所、瓦礫を以ってこれに代えるといえども、まさに行うべし」